

しんせいじ らんそう しゅ 新生児の卵巣のう腫

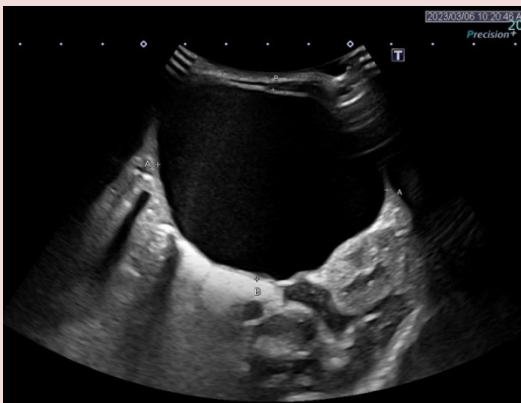
医学研究所北野病院 小児外科

新生児の卵巣のう腫とは？

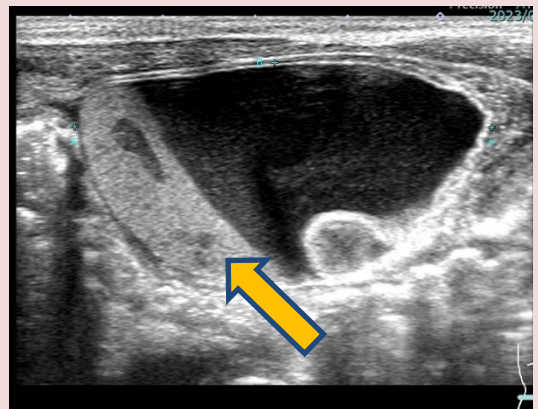
胎児のときは母親のホルモンの影響を受けて、卵巣にお水がたまり大きくなるのが時々あります。それでも多くの場合、出生後は母親からの女性ホルモンの影響なくなるので自然に小さくなるのが期待できます。しかし卵巣の大きさが4-5cm以上になると、捻じれて腐ってしまうリスクがあると言われていています。そのため大きな卵巣のう腫の場合は、手術で卵巣の袋を切開し内部の水を排出させることもあります。

検査は？

一般には、胎児期の時に超音波検査で見つかります。出生後に超音波検査で卵巣の大きさを測定し治療の必要性を考えていきます。胎児のときにすでに捻じれていることもあります。



捻転していない卵巣のう腫は内部がきれいな事が多いです



捻転した卵巣のう腫は内部に出血などの影響で、モロモロしたものが多く見ることが多いです

手術は？

手術は、ほとんどの場合おへそからの小さな傷で行うことが可能です。傷はあまり目立ちません。一度手術で水を排出させれば、再度たまってくることはほとんどありません。

